

平成 29年度 南地域包括支援センター評価報告書

| | | | |
|----------|------------|------|-----------------|
| 自己評価実施日 | 平成30年1月23日 | 包括情報 | |
| 行政評価実施日 | 平成30年2月20日 | 法人名 | 苫小牧市南地域包括支援センター |
| 運営協議会開催日 | 平成30年3月19日 | 責任者 | 桃井直樹 |
| | | 連絡先 | 0144-71-5005 |

| 地域情報 | |
|-------|---|
| 担当地区 | 青葉町、字糸井(287～446番地を除く)、有明町、永福町、小糸井町、光洋町、白金町、新富町、大成町、浜町、矢代町、弥生町、日吉町、元町 |
| 高齢者人口 | 6,023 人(H29.10.1現在) |
| 高齢化率 | 33.1 %(H29.10.1現在) |
| 地域特性 | 一戸建ても多くあり、古くから住んでいる方が多い為高齢化が進んでおり空き家も増えてきている。市内でも高齢化率が高く、公営住宅が多くある。独居高齢者や高齢者夫婦が多く、低所得世帯や様々な病気を持っている者も多い地域。公営住宅前には大きな病院があり、地域の多くの高齢者がかかっている。グループホームは圏域に4つ、入居型の福祉施設は比較的少ない。 |

| 職員体制 | |
|---------------|--------------|
| ○職種 | ○雇用形態 |
| 保健師または看護師 1 人 | 常勤職員 7 人 |
| 主任介護支援専門員 1 人 | 非常勤職員 0 人 |
| 社会福祉士 2 人 | |
| その他 3 人 | ○常勤職員の平均勤務年数 |
| | 平均 3年 |

| 総合評価 | |
|---|--|
| 自己評価 | 行政評価 |
| 職員の平均勤務年数は3年程度であるが、各々の強みを活かしながら協力し業務を進めている。事業の理解や社会資源の把握、他機関との連携については理解できている。相談が多く寄せられている状況であり、それだけ圏域の中で包括支援センターが周知されてきていると感じる。活動の中で見えてきた課題を取り組みに繋げていくのが今後の課題である。 | 職員間でケースの状況を検討したり、1つ1つの業務への共通理解が進むよう努めている。住民のニーズや地域の課題から地域づくりへとつなげる意識が強化されつつあり、今後は関係者同士で連携した取り組みに期待する。また、個別のケースを通じた介護支援専門員の支援充実を図りたい。 |

| 評価項目 | | |
|---|--|---|
| 運営体制 | | |
| (1)運営方針に沿った事業計画をたて、職員全体に理解・共有されている | | |
| (2)ミーティング等を計画的に開催し情報共有している | | |
| (3)職場内外の研修機会を確保し、内容の共有をしている | | |
| (4)個人情報含む記録物を適切に保管している | | |
| (5)委託業務に基づく書類等を期日内に提出している | | |
| (6)苦情の内容と対処についてセンター内共有し再発防止に努めている | | |
| (7)プランナーの雇用等センターを適切に運営するための人員体制が整備されている | | |
| (8)相談・面談室のプライバシーが確保されている | | |
| (9)休日・夜間の連絡体制が整備されている | | |
| | 自己評価 | 行政評価 |
| 特記事項 | 毎週木曜日にミーティングを行い、相談案件の共有や事業進捗状況について確認している。多問題家族の対応や独居で支援者がいない方など、対応に時間のかかる相談が多いが、トライアージしながら適切に対応できるよう努めている。 | 週に一度定期的にミーティングを行い、個別ケース等についての情報共有がされている。職員全体が事業計画を共有・理解されることで更なる業務推進に期待する。 |
| 共通的支援基盤構築 | | |
| (1)ホームページ等独自の広報活動及び取組報告を行っている | | |
| (2)既存の社会資源やニーズの把握及び地域の実態把握を行っている | | |
| (3)既存の社会資源を地域のニーズに応じて改善したり、開発に向けた取組を行っている | | |
| | 自己評価 | 行政評価 |
| 特記事項 | 町内会や自治会、民生委員との顔の見える関係を築いており、多くの相談に繋がっていると考えられる。地域ニーズに関しては個別ケース支援を通じ把握はしているが、それに対して取組みを行っていくのが今後の課題となる。 | 様々な団体への講話を通して包括についての活動の報告・独自のパンフレットを使用した広報を行っている。物的・人的資源などをマップに記載し、社会資源の分布を明確にしている点は評価する。 |

| 評価項目 | | |
|---|--|---|
| 総合相談支援・権利擁護 | | |
| (1)相談には速やかに対応し、的確な状況把握及び信頼関係の構築に努めている | | |
| (2)的確に状況を把握し緊急性の有無を判断している | | |
| (3)相談内容およびその後の経過等が適切に記録・管理されている | | |
| (4)困難事例は速やかに3職種の専門性をふまえて協議し、結果を記録に残している | | |
| (5)主担当以外においてもケースの概要を把握している | | |
| (6)センター運営全体に関する課題や地域の課題について定期的に情報共有し検討している | | |
| (7)家族介護者に対する相談支援、情報や知識・技術の提供を行っている | | |
| (8)成年後見制度の相談に適切に対応し、利用支援できている | | |
| (9)高齢者虐待防止及び対応において、マニュアルに基づき適切に行っている | | |
| (10)職員が消費者被害の動向を把握し、必要時関係者に情報提供している | | |
| | 自己評価 | 行政評価 |
| 特記事項 | 困難事例は職員が複数で対応し、多様な視点で介入が出来る。ミーティングを通じてケースの概要を把握し担当者がいない時でも対応が出来る様な体制を取っている。 | 相談対応時には職員間で速やかに役割分担を行っている。高齢者虐待の対応については、マニュアルに基づき関係機関とより迅速な連携を図り、支援することを期待する。 |
| 包括的・継続的ケアマネジメント支援 | | |
| (1)医療機関や介護事業所等を把握し、連携体制が得られやすいような働きかけを行っている | | |
| (2)介護支援専門員に対し、困難事例の同行訪問やサービス担当者会議への出席を通じたサポートを行っている | | |
| (3)介護支援専門員の資質向上のため、研修会や事例検討会等を行っている | | |
| (4)定期的・効果的に地域ケア会議を開催し、顔の見える関係づくりを行っている | | |
| (5)地域にある資源についての情報を把握し、いつでもその情報を提供できるよう準備している | | |
| | 自己評価 | 行政評価 |
| 特記事項 | 医療機関との連携事案は増えており、今後も顔の見える関係を継続していく事が重要。年々、地域ケア会議の実施数も増えてきており、ケース支援の方法について視野も広がってきている。必要に応じて個々のケースへの後方支援を行っている。 | 介護支援専門員の資質向上のために、事例検討会や情報提供等を山手包括支援センターと協力しながら行っている。介護支援専門員に対し困難事例の同行訪問支援等の実績はほとんどなく、介護支援専門員の困りごと等の状況把握に課題が残っている。 |

| 評価項目 | | |
|---|--|---|
| 介護予防マネジメント・介護予防支援 | | |
| (1)介護予防の取組を生活の中に取り入れられるよう支援を行っている | | |
| (2)要支援状態の悪化の防止、あるいは改善を目指した支援を行っている | | |
| (3)非該当者や介護予防事業の参加につながらなかった人に対し、本人の状態確認を行い、適切な支援や情報提供をしている | | |
| | 自己評価 | 行政評価 |
| 特記事項 | 予防教室スタッフとのミーティングを実施し、理学療法士や作業療法士等専門職の意見を踏まえ、どの様な方向性で行っていくか意識共有を図っている。単に身体能力の維持向上を目的とするだけではなく、参加や活動といった視点にも力を入れている。 | 介護予防の事業の参加につながらなかった人等に対し、その後のフォローを継続的に行っている。要支援者に対し、介護サービス利用だけでなく改善を目指した支援の充実を期待する。 |
| 認知症施策の推進 | | |
| (1)必要な人を認知症初期集中支援チームにつなげ、適切に支援している | | |
| (2)サポーター養成講座や搜索模擬訓練等住民への正しい知識の普及を図っている | | |
| (3)認知症地域支援推進員と連携し地域づくりに向けた取組を行っている | | |
| | 自己評価 | 行政評価 |
| 特記事項 | 認知症の相談ケースがあった際には、職員間で協議し適切な支援を検討している。初めての取り組みとして圏域内の高校で養成講座、模擬訓練などを行い知識の普及を図った。翌年以降も継続して実施出来る関係を構築出来た。 | 高等学校へのサポーター養成等普及啓発を行っている。推進員と連携し、町内会への包括支援センターと協働した取組の検討等、具体的な地域づくりに向けた活動に期待する。 |
| 在宅医療・介護連携推進 | | |
| (1)医療機関・介護サービス資源・情報を把握している | | |
| (2)在宅医療・介護連携に関する相談支援が効果的に行われている | | |
| (3)医療機関や介護事業所を訪問し、連携体制を得られやすいような働きかけを行っている | | |
| | 自己評価 | 行政評価 |
| 特記事項 | 医療機関が実施している連携を深める事を目的とした集まりに参加し、顔の見える関係づくりに努めている。ケースカンファレンスの参加なども積極的に行い、連携を深めている。 | 医療機関との連携が図れるよう集まりに参加し、顔の見える関係づくりに努めている。今後は顔の見える関係を活かした円滑な支援・連携体制を期待する。 |

| 評価項目 | | |
|---|--|---|
| 生活支援体制整備 | | |
| (1)総合相談や地域ケア会議等を通じて地域課題や資源把握に努めている | | |
| (2)生活支援コーディネーターと連携した地域づくりに努めている | | |
| | 自己評価 | 行政評価 |
| 特記事項 | 生活支援コーディネーターと協力しながら、高齢者が多いいくつかのエリアに焦点を絞り、地域の現状や課題の抽出などを地域住民との話し合いを重ねつつ行っている。 | コーディネーターと地域の課題について共有し、地域づくりに向けた話し合いがなされている。今後は具体的に活動を実施できるように、取り組みの発展を期待する。 |
| 一般介護予防事業 | | |
| (1)介護予防の重要性や一般的な知識、介護予防事業に関する情報について積極的に普及啓発している | | |
| (2)介護予防教室の参加者が、自らの機能を維持向上する努力ができるようわかりやすい情報の提示や助言を行っている | | |
| (3)介護予防教室が終了したあと、対象者の心身の状況等把握し適切に評価している | | |
| (4)評価後もフォローが必要な対象者を把握し、フォロー継続できている | | |
| (5)地域の関係機関やボランティア団体等の定例会等に参加し、介護予防に関する地域情報を把握している | | |
| (6)地域の関係機関やボランティア団体等からの出前講座等の依頼に対し積極的に協力している | | |
| | 自己評価 | 行政評価 |
| 特記事項 | 毎年、ボランティア団体の集まりに顔を出し、講話を行ったり、情報を交換する事で顔の見える関係が出来ている。地域の現状を知っていたら、社会資源として活躍してもらえる様にボランティア活動の有用性など伝えている。 | 全包括職員が教室に関わることで、住民のニーズや課題把握に努めている。また、専門性の高い教室運営を行うとともに、スタッフ同士のミーティングを重ねることで目指す方向性の統一を図っている。 |

評価基準

- ◎ 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施した上に独自の取組等優れた業務を実施できた
- 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施している
- △ 評価項目や仕様書等で定められた業務を何らかの理由により一部実施できなかった
- × 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施できず、改善が必要

| |
|--|
| <p>事業年度計画のうち、特に重点的に行った事業及び内容</p> |
| <p>重点的に行った事として、認知症施策、初期集中支援、地域ケア会議と様々な事業を行う上で重要な、事業の理解に重点を置いてきた。勤務経験が短い者も多くいるが、少しずつ事業に対しての理解が進んできており、対応しているケースや相談があった際に事業を絡めた視点で検討できるようになってきている。</p> |
| <p>今年度事業の達成状況及び成果</p> |
| <p>前年に比べると、事業の実施件数は増えており、点と点で考えていた事業もそれらを繋ぎ合わせ線にしていくという考え方も少しずつ出来ている。今年度、サポーター養成講座と声掛け訓練を実施する事が出来た圏域の高校との繋がりを、単発の取り組みにするのではなく、翌年度は地域と繋がる様に広げて行きたい。</p> |
| <p>達成できた又は達成できなかった原因</p> |
| <p>職員間で事業について考えたり、話し合う時間を意識的につくった為、職員1人1人が必要な事と認識し、取り組みが進んだと考えられる。又、前年までは担当者を決めていないことで主体性に欠ける部分もあったが、包括内で事業の主担当を決めて取り組んだ事で全体の意識に変化も出たと感じる。</p> |
| <p>課題及び今後の取組み</p> |
| <p>予防支援業務にかかる割合も年々増加している状況と、独居認知症高齢者や精神疾患、多問題家族に対応する時間がかかっている現状がある。また、時間の長さだけではなく精神的な負担感もあるが、今後は地域住民が多く参加している集まりやサロン、介護予防教室に今以上に関わることも大切である。また、各種の事業の実施に向けての話し合いを行い、計画的に事業を行っていく必要がある。</p> |